

純血華劇派 第15回公演

『海賊バンジーと黄金のジパング!』

作・演出 春田鮎



登場人物

バンジー・・・海賊ホエール族の末裔
スカイ・・・バンジーの相棒
マリネ・・・陽気なピエロ
ダンス・・・バンジーの元恋人
ギラギラ・・・トレジャーハンター 守銭奴
アボカド・・・ホエール号のコック長 くいしん坊
キース・・・考古学者 バンジーの宿敵
ナワバリ・・・キースに雇われたチンピラ海賊
テキーラ・・・ナワバリの子分 酒と喧嘩と女好き
アバズレ・・・海賊亡霊三銃士の姉
シリガル・・・海賊亡霊三銃士の妹
クスグリ・・・海賊亡霊三銃士の弟
あめふらし・・・島の女
さんご・・・島を愛する少女
そら・・・さんごの弟
海原（かいげん）・・・カクレテンプルの当主
潮目（しおめ）・・・海原の側近
カクレゴットダン・・・正体不明の謎の集団
おなご衆・・・天主堂の美女たち
波のモブ
島の先祖の霊
黄金のマリア像

■一 波

新しい航海に出た海賊バンジー一行。
いい風に乗ってホエール号はグイグイ海原を進む。

スカイ「バンジー船長、いい風ですね！」

バンジー「ああ、いい船足だ。いつも通り、俺は今日も最高に運がいい！」
ギラギラ「運がいいって…お宝のひとつも手に入れられないで、いったいどこの誰の運がいいっていうんですか？」

スカイ「えらそうに、テメエがそんなこと言えた口か！？海に叩き込むぞ！」

ギラギラ「ちよ、待って待って！暴力反対！」

マリネ「まあまあ、二人とも落ち着いてください。折角の船旅ですよ。楽しく参りましょう」

バンジー「おまえこそ、ほんとうによかったのか？残っても良かったんだぜ、プンタアヒージョによ」

マリネ「そのことはもういいです。ひとところに落ち着くのは性に合いません。まあ、一種の病気でしようね。ワクワク病とでも言いましょうか」

バンジー「ワクワク病か、いいなそれ。俺もきつとそのワクワク病だな(笑)」
ギラギラ「あんたのはハチャメチャ病でしょ」

バンジー「なに？ハチャメチャキック！」

ギラギラ「うわ、とつとつと！あぶなー！いきなり蹴らないでくださいよ！本当に落ちたらどうするんですか！？」

バンジー&みんな「(爆笑)」

マリネ「(笑)ところで、ダンスさんがいませんね？」

スカイ「本当だな？おーい、ダンス！？」

水着姿のダンスがでっかいサングラスを外す。

ダンス「なーに？人が気持ちよく日焼けしてるのに」

マリネ「でかつ！メガネでかつ！」

ダンス「あーあ、もう船の上は飽きちゃったわ。まだ着かないの？東の果ての島」

スカイ「馬鹿野郎、そんなにすぐ着くか！」

ギラギラ「だけどプンタアヒージョの港を出てだいぶ経ちましたからね」

バンジー「たしかにそろそろ着いてもいい頃だな。どうだ？スカイ」

スカイ「ちよつと待ってくださいよ(望遠鏡をのぞく)…あ！あれ！」

バンジー「貸してみろ、おー！あれは…すんげえクジラの潮吹きだ」

一同、ずっこける。

スカイ「どこ見てるんだよ、違う違う！もつと右！」

バンジー「右？えつと…あった！島が見えるぞ」

スカイ「(地図を確認)間違いない！あれが東の果ての島だ」

ダンス「やつと着いたのね！早く上陸して黄金のマリア像を探しましょう」

よ！」
スカイ「簡単に言うんじゃないやねえよ、まだどんな奴がいるかも分からねえんだぞ」

マリネ「だいたい本当にあるんですかね？東の果ての島の黄金のマリア像。あなたの持つてくるのは、いつも妖しい話ばかりですからね」

ダンス「何よ、今度こそ間違いないわよ！インドから来た武器商人の情報よ、行けばわかるわよ」

スカイ「行ってなかったらどうしてくれるんだよ？」

ダンス「うるさい、下っ端！だったらあんたがさっさと先に行つて、偵察でもなんでもしてきなさいよ」

スカイ「下っ端ー！？言わせておけば、ろくに働かないタダメシ大食らいデカ女が！？」

ダンス「なんですつて！？」

突然、スカイを狙つて銃を乱射するダンス。

スカイ「バカバカ！やめろ！」

バンジー「落ち着けダンス！こつちにまで当たるだろうが！」

ダンス「今のセリフだけは許さないわよ！死んで詫びな、スカイ！」

マリネ「ひー、たすけてー、弾の無駄遣いですよ、ダンスさん、ヒヤッ！（弾がちよんまげをかすめる）・・・ふー（気絶）」

ギラギラ「あ、マリネ、しっかりしろ！（マリネのポケットをあさる）」

マリネ「ううん…わ、何をしてるんですか！？まったく油断も隙もない！」

弾が尽きた様子のダンス。

ダンス「ふー、ふー…」

パンとまたも銃声。

バンジー「おい、ダンス、いい加減に」

更に続く銃声！

ギラギラ「なんだ！？」

スカイ「バンジー、あつちだ！あの船から撃つてきやがる！」

バンジー「なんだと！？」

近づいてくるシャーク号。

キース「撃て撃て撃てー！撃ちまくれ！あの憎つくきクソ海賊をぶち殺せー！」

更に乱射するキース。

アバズレ「バンジー、おひさ〜！元気そうじゃない？」
バンジー「アバズレ！」

シリガル「スカイ！私まだあなたの事あきらめてないからね〜（投げキッス）チュ♡」

スカイ「わ、出た！シリガル！」

クスグリ「人間になりた〜い！」

マリネ「破天荒な末っ子、クスグリでしたね」

キース「わはははは、誰が女にもてないだど？ねえ、アバズレさん（肩を抱く）」

アバズレ「うふふ、私あれから、人のために働く彼を好きになっちゃって、ルシフェルの鏡のひとつを探し出してきてあげたの。それを使って、サカサカサって」

マリネ「それで元に戻ったのですね。見つからなかった方が良かったのに」
ギラギラ「おい、どこで見つけたんだ！頼む、教えてくれ！私もルシフェルの鏡…欲しい！」

クスグリ「何に使うんだ？」

ギラギラ「うぐっ…背を伸ばしたいの！何度も言わせんな！」
みんな「（笑）」

船倉から出てくるアボカド。

アボカド「ご飯できたよー！」

キース「とにかく私の邪魔はするな！死ぬ！」

銃を撃つキース。

弾がアボカドの腹に命中する。

アボカド「う！…（倒れる）」

マリネ「アボカド！」

駆け寄るみんな。腹から血が流れている。

ギラギラ「おー、大変だ、血が出てる！」

スカイ「キース、テメー！」

マリネ「しつかり！死んじや駄目ですよ！」

ギラギラ「気を確かに！」

スカイ「死んだら美味しいもん食べねえぞ！」

スカイ・マリネ・ギラギラ「アボカド！」

アボカド「うっ…いったたた。何すんだよ、いきなり…ふー」

ギラギラ「え？…今、弾当たったよね？」

マリネ「はい、土手っ腹にズドンと」

バンジー「すげえな、アボカド。それ、どんな技だ？」

マリネ「技なわけないでしょ」

ギラギラ「へそから呑みこんじやったのか？」

スカイ「口から出すってか？」
ギラギラ「人間ポンプ!？」
マチネ「金魚を口から出すやつですね、以前、私も随分練習したんですが、金魚が生臭くて、どーにもおえっおえって」

アボカドの腹から弾の刺さったトマト缶が出てくる。

スカイ「トマト？」

マリネ「あらあら、上手いこと当たりましたねー」

ギラギラ「なんだって缶詰なんて」

アボカド「ワツチの時に空腹いたら食べようと思って…あ、今日のご飯はシーフードリゾットだよ」

スカイ「そんな場合か!？」

バンジー「俺、リゾット嫌い。ベチャベチャしてて食ってんだか飲んでだかわかんねえだもん」

アボカド「何言ってるの!？リゾットはね、体に優しくて、体があつたま
って、栄養たつぷりのスープパーメニューなんだよ！イカにエビ、ホタテに
スズキをニンニクの効いたトマトソースで炊き込んで、パルメザンにゴル
ゴンゾーラのダブルチーズをたっぷり加えたハーモニーは天にも昇る芳
醇さ！ひとサジひとサジが美味さのメリーゴーランド！止まらない止め
られない、今日の食卓が夢の国に早変わりさ！」

ホエール号「おー！（拍手）」

キース「だから、こつちを無視するなど言ってるだろうが!…貴様ら、分
かっているぞ、東の果ての島にある、黄金のマリア像を狙ってるんだろ
う？だがな、あのマリア像は私が長年探し求めてきたものだ！」

バンジー「早耳だけは褒めてやるがよ、まったくウザい野郎だぜ」

キース「ウザいだとー!？ふん、まあいい、どつちにしてもお宝は私がい
ただく」

バンジー「面白え、じゃあ一丁、勝負といこうじゃねえか。どつちが先に
黄金のマリア像様の微笑みを拝めるかをよ」

キース「わーはっははは！いいだろう、受けて立とう。そのオンボロ船で
たどり着けたらな！それっ！」

ホエール号に爆弾を放り込むキース。

バンジー「おっととと、やべっ！ほれ」

マリネ「うわあ！やめてください！パス！」

スカイ「パスすんな！ほい！」

ギラギラ「あわわわ！どうすんの!？どうすんの!？」

逃げ惑うバンジー達。

そこにダンスが船室から出てくる。

ダンス「どう？ドンパチは終わったの？（ギラギラから爆弾を受け取り、

乱暴にいじくる)何よこれ?」
バンジー「やややややや!やめて、もうちよつと丁寧に、ね?ダンス様!」
マリネ「ダンスさん!それ」
みんな「爆弾!」
ダンス「え?...キヤー!」

爆弾を海に投げ捨てるダンス。
爆弾が爆発し、大爆音と閃光の中、凄まじい水しぶきが舞う。

M テーマソング

※アンサンブル..波のモブ

波間に見え隠れする海賊たち。――

■二波

波打ち際に打ち上げられたスカイ、ダンス、マリネ、アボカド。
しばらくして目を覚ます。

スカイ「うっ...いつててて...ふー、ひでえ目にあっただぜ、キースの野郎、
今度会ったらただじゃおかねえ。は!船は...あーあ、あんなにでっかい
穴が開いたんじゃ、また修理かよ...」

マリネ「うー...あ?あー、あーあー、あれ?なんだか耳がよく聞こえませ
んね...あー、あー」

スカイ「大丈夫か?マリネ。おーい、マリネ? (聞こえない様子なのでゆ
っくり大きな声で) 耳元でかい爆発音があったから一時的に聞こえなく
なったんだらう。しばらくしたら治るから心配すんな」

マリネ「(うなずきながら聞いていたマリネ) 何か言いましたか?」

スカイ「(ずっこける) もういいわ」
ダンス「...どこのの?ここ...」

アボカド「さあね...いたたたた」
スカイ「もしかして!」

地図や方位磁石や望遠鏡で周囲を確認するスカイ。

スカイ「間違いない、東の果ての島だ!爆発で船から投げ出されたけど、
運よく島に流れ着いたんだ!よかったなあ、なあバンジー!あれ?バンジ
ーは?」

ダンス「バンジーがないわ!...バンジー!バンジー!」

バンジーを探す一行。

ダンス「バンジー、そんな...うあーん!バンジーが死んじゃったー!」
マリネ「まだ分かりませんよ、そのうちひよっこりと」

ギラギラ「私の事は探さないのですか？」

ひよっこり出て来るギラギラ。

スカイ「ギラギラ」

アボカド「いたなの？」

ギラギラ「いたわ！ほれ（アボカドにマンゴーを投げてよこす）」

アボカド「うあ、マンゴー！おいしそう！いただきまーす！（ムシヤムシヤ）おいしい、おいしい」

マリネ「バンジー船長を見ませんでしたか？もしや海に落ちた際にサメにでも食べられちゃったんですかねえ？」

スカイ「ロコ爺さんと一緒にすんな」

ダンス「それで？あんたはどこに行つてたのよ？またなんか企んでるんじゃないでしょうね？」

ギラギラ「あなたただけには言われたくない」

スカイ「そりやそうだ」

ダンス「ふん！」

ギラギラ「ちよつと偵察に」

スカイ「何かあつたか？」

ギラギラ「ええ、崖の上になにやら奇妙な建物が立っている」

アボカド「奇妙？」

ギラギラ「ああ、寺のような、教会みたいな」

ダンス「寺のような、教会みたいなの？」

アボカド「レストランじゃない？シーフードの！」

スカイ「バーカ、こんな離れ孤島に誰がわざわざ飯食いに来るんだよ」

マリネ「調べてみたほうがよさそうですね」

ダンス「私ここにいていい？崖の上つてことは岩とか登るんでしょ？いや

よもう、遅くなっちゃったらどうするの？」

アボカド「大丈夫だよ。もうずいぶん遅しいよ」

ダンス「てめえも死んで詫びるか？」

アボカド「ごめんさーい！」

マリネ「建物があるってことは、人間がいるってことですよね？」

ダンス「あら、そうとは限らないわよ。昔はいたけど今はいないかもしれないじゃない？」

アボカド「島から出て行つたってこと？」

ギラギラ「または全滅したとか？」

ダンス「全滅？なんで？」

ギラギラ「殺されたとか？」

ダンス「ヤダ！」

アボカド「怖いなあ」

ギラギラ「なにを今さら。財宝を狙って皆殺しにした後、略奪の限りを尽くしてきたのがあなたたち海賊だ。黄金のマリア像を狙った何者かに、先を越されていたとしてもおかしくはない」

スカイ「そうかもしれないねえし、そうじゃないかもしれないねえ。とにかく今は、どこか寢床を探そう。火を熾して朝を待つんだ。それからゆっくり島の中を」

そこに少女（さんご）が現れ手招きをする。

マリネ「よんでいるようですね？」

スカイ「行ってみるか？」

ダンス「罨だったらどうするのよ？」

アボカド「罨でも食べ物があるなら」

ギラギラ「おい、何か用か？」

さんご「…姉（あね）さまがよんでる」

スカイ「姉さま？」

走り去ってしまう少女。

マリネ「あ！」

ギラギラ「おい！」

アボカド「行っちゃった」

ダンス「どうするの？」

スカイ「行ってみよう」

少女の後を追う五人。

竜宮城のような宴の中心で、美しい女たちに囲まれて、大喜びで酔っぱらっているバンジー。

バンジー「おっととと、（飲み干す）くー、強ええ酒だな！ワインなんかとは比べ物になんねえ！」

潮目「麦やイモから作るショーチューいうお酒ばい。お気に召したと？」

バンジー「召したと！召したと！俺はこの島、すげえお気に召したとー！」

潮目「それはうれしか。どうぞ、もひとつ」

バンジー「おう！よし、今日はてつてー的に飲むぞー」

一段と美しい女（海原）が来る。

海原「楽しかお人ね」

バンジー「だって楽しいもん！あんたここの偉い人？」

海原「まあ、そのようなものばい」

バンジー「ところでさ、ここはどこなの？」

海原「ここ？ここは楽園ばい」

バンジー「俺さ、東の果ての島ってところに行かなくちゃいけないんだけど、ここじゃない？」

海原「さあ、どうやろう。そこに行つて、何ぼするんか？」
バンジー「そこにね、むかーし昔、マルコポーロつてやつが隠したつていう黄金のマリア像つてのがあつたらしいんだ。聞いたことない？」
海原「聞いたことなか。そのマリア像をどうしようか？」
バンジー「ただくだよ。だつて俺、海賊だもん」
潮目「海賊？それはまた、たまがつた」
バンジー「たまがつた？」
海原「驚いたつてこと。それで、いただいた後はどうすると？」
バンジー「うーん、そうだな…どうしようかな」
海原「じゃあ、うちにくれん？」
バンジー「お前に？」
潮目「いやん、うちにくれん？」
バンジー「お前も？…ま、いっか！やるやる。見つけたらお前らにやる！」
海原「うれしか！」
潮目「約束ばい？海賊さん」
バンジー「OK！OK！約束するばい！」
海原「まあ、もう島言葉覚えとー！さあ、もつと飲んでくれん！ねえ、酒ばどんどん持つてきて！おなご衆、踊らんね」
潮目「はい！」

M 東の果ての島

※アンサンブル…おなご衆

あめふらしの家。

さんごに連れられて、おずおずと入ってくるスカイたち。

さんご「姉さま、連れて来たよ」

アボカド「へー、これが東の果ての島の家か。始めて見たなあ」

あめふらし「どうぞ、お入りなさい。火にあたつて服を乾かさないと」

マリネ「ありがとうございます。でもどうして私たちを？」

あめふらし「沖で大きな音が聞こえて、弟が浜に行く人と人が倒れていると言うのでね。困つた人を助けるのは当たり前でしょ。まして海の事故を見過ごすわけには行かないよ。遠慮しないで、さ」

スカイ「そうか。それじゃ、お言葉に甘えて」

アボカド「お腹すいたなあ」

マリネ「こら」

アボカド「いけね…」

そら「…これあげる」

スカイ「…なんだ？これは」

そら「きびなご」

アボカド「きびなご！？（スカイの手から奪つて食べる）おいしい！（ムシヤムシヤ）」

そら「おいしいだろ？」

スカイ「(食べてみる) 美味しい、坊主、ありがとな」
あめふらし「お腹がすいたでしょ？何もないけど、今、用意するから」
マリネ「あの、よろしければお名前を」
あめふらし「私はあめふらし。それから、妹のさんごに弟のそら。さ、座
って」

火を囲み、皆で一緒に食事を摂る。

アボカド「うまいなあー！(がつがつ) おかわり！」

あめふらし「(笑) はいはい、たくさんあるからゆっくり食べなさい」

スカイ「じゃあ俺も！」

あめふらし「はいはい」

ギラギラ「ところで崖の上に家がありました、誰か住んでいるのですか？」

そら「あれはカクレテンプルだよ！海原っていう奴が住んでるんだ」

あめふらし「そら」

そら「いけねえ…」

さんご「あれは、この島の守り神を祀った天主堂で、昔からカクレテンプルと呼ばれているわ」

アボカド「テンプラ！？天ぷら屋なの？やっぱり食べ物屋だったのか！よかつたあ。おすすめは何？えび天？アナゴ？それとも枝豆と貝柱のかき揚げなんか出しちゃう本格派の店？」

ダンス「テンプラじゃないわよ、テンプル！」

アボカド「あ…なははは」

スカイ「それで、その海原っていうのは何者なんだ？」

あめふらし「海原は…どこからいつこの島に来たのかも定かではないけれど、天主堂に住みつき、島を牛耳っている…」

そら「俺はあいつ嫌いだ！」

あめふらし「そら」

そら「いいじゃないか！どうして言わないのさ、あいつは妖怪なんだって！」

ダンス「妖怪？」

そら「そうだよ！あいつは人を操る力を持った恐ろしい化け物なんだ！」
マリネ「うーん、にわかには信じがたいですが、本当ですか？あめふらしさん」

あめふらし「…わからないわ…ただ、天草四朗の生れ変わりだとか、本当は醜い魑魅魍魎だと言う者もいるけれど…表だって海原に逆らう者は誰もいない」

ギラギラ「この島には、なんか秘密でもあるのですか？」

あめふらし「…この島は本土に住んでいたご先祖様たちが、信仰を守るために逃げて来た島なのよ」

ダンス「逃げて来た？いったい何のために？」

あめふらし「私たちは先祖代々、異国の神を信仰してきた」

スカイ「異国の神」

あめふらし「ところが時の権力者はその神を異端だとして弾圧を繰り返した。けど先祖たちはあらゆる手を尽くし、信仰を守ってきたのよ」

マリネ「いったいどうやって？」

あめふらし「お寺に似せた教会を作り、観音様そっくりのマリア像を作つて、祈り続けてきたの」

ギラギラ「(手帳で確認する) マリア観音か!？」

あめふらし「ええ…古来の神仏に己が信ずる神を隠すことによつて、為政者の目を欺き、密かに守り続けてきた」

ダンス「聞いてもいい？」

あめふらし「いいわよ」

ダンス「この島には黄金のマリア像があるの？」

マリネ「直球」

ダンス「いいじゃない。わたしたち、東の果ての島にマルコポーロが隠した黄金のマリア像があるって聞いてここまで来たの。ねえ、どうなの？ 教えてくれない？」

マリネ「まあまあ、そんなに焦らないで」

あめふらし「昔、マルコポーロという人物が、東の果てには“黄金の国・ジパング”があると云つた。その話が、私たちの黄金のマリア像と混同されたのね。そのせいで、この島はこれまでも幾度となく、黄金のマリア像を求める海賊、盗賊、または時の権力者に蹂躪されてきた。その度に多くの人々の血が流れ、命を奪われ、いつしかマリア像をめぐる島の人間も分裂してしまい気が付けば、あの海原の好きないようにされてしまった…」

ダンス「事情は分かったわ。それで、あるの？ ないの？ どっち？」

そら「ないよ！」

スカイ「ない？」

そら「そうだよ！ ない！ だってマリア像が見つかったらさんごは…さんごは、殺されちゃうんだから！」

ホエール号一同「なんだって!？」

M 黄金のマリア像

※アンサンブル…島の先祖の霊

■三波

丘の上の天主堂、カクレテンブル。響く鐘の音。

海原の元が集まったキース達一行。

ナワバリ「天主堂(読む)：ふーん、なんだかカビくさいところすね」

テキーラ「お供え物の酒でもないかなあ」

ナワバリ「よさねえか、みつともねえ。テキーラ、お前この間禁酒したばかりじゃねえのか？」

テキーラ「だって、酒が抜けたらなんだかシャキツとしちまって」

ナワバリ「いいじゃねえか」

テキーラ「眠れなくなっちゃまったおかげで見張りの時間に寝ちまうんだ」

ナワバリ「そりや駄目だな」

テキーラ「だからナワバリの兄貴、俺は考えた」

ナワバリ「何を？」

テキーラ「呑まないでもよく眠れる方法を」

ナワバリ「どんな方法だよ」

テキーラ「それはね、こうしてこうして！（頭をガンガンぶつける）」

ナワバリ「馬鹿、やめねえか！それ以上馬鹿になったらどうする！？」

キース「静かにしろ！うるさくてかなわない」

ナワバリ「すいません：ほら、お前も謝れ」

テキーラ「あい、ついまてーん！」

ナワバリ「はあ：」

キース「なんとか船は沈没せずにすんだが、マストも舵もやられてえらい目にあつた。私まで櫓で漕がされるとは、まったく！誰だ？爆弾なんか持ち出したのは！」

みんなでキースを指さす。気まずそうなキース。

アバズレ「ま、無事に東の果ての島までたどり着いたんだから、良しとしましょうよ、ダーリン。それにこの当主さえ味方につければ上手くいくんでしょ？うふふふふ：それにしても変わった建物ね。私たちの住んでた海底の幻の城にもちよつと似ているけど」

キース「西洋と東洋が混ざり合ったような実に面妖なデザインだ」

クスグリ「懐かしいなあ：俺、帰りたくなっちゃったな、海の底に」

シリガル「何よクスグリ、今さら帰れるわけないでしょ！人間の世界にどっぷりつかっちゃったし、海は汚れる一方だし。それに海底にはいい男いないんだもん！私は嫌よ、あんな辛気臭い世界に帰るなんて」

アバズレ「私だってお断りよ。だって私にはもう、かけがえのない人がいるんですもの。ね、キース博士♡」

キース「そのとおりでよ、アバズレさん。私の長い長い孤独な日々、ついに差し込んだ一条の光！それが君だ！ジュテームアバズレ！アモーレアバズレ！」

抱きしめあうキースとアバズレ。

シリガル「（大笑）はずかしいっつの、いい年こいて」

クスグリ「ホントホント！」

アバズレ「何！？シリガル、クスグリ、今なんて言った！？」

シリガル「あ、聞こえちゃった、わるいわるい、別に何にも」

アバズレ「家族に隠れてコソコソ合コン行ってるあんたや、ゲームやアイドルにうつつを抜かしてるあんたと違ってね、あたしは何百年も海の底でただただセイレーンの言いつけを守って海を守ってきたのよ。そのおかげで気が付けば自分でも覚えてないくらい年をとってしまった：分かる？海の底ってほとんど変化が無いのよ：変わるののは汐の満ち欠けくらい：揺れてるの、ただただ毎日揺れてるだけなのよ：このままじゃ海に融けて

無くなつちやうよー！うわーん！（大泣き）

クスグリ「あ：でも亡霊だから良かったね」

アバズレ「え？」

シリガル「そうだよ、お姉ちゃん！亡霊だから全然、年取ったようには見えないよ！肌だって昔のままだし、お腹なんかもほら、引き締まつてて、アバラくつきり！かつこいいわ、お姉ちゃん！お姉ちゃんこそ亡霊の中の亡霊よ！」

アバズレ「そう？本当に？本当にそう思う！？」

シリガル・クスグリ「思う思う！」

アバズレ「アハハハハ！私もそう思うー！」

M 海賊亡霊三銃士のテーマ

喜び合う三人と、感動して泣いているキース。

そこに潮目が入ってくる。

潮目「ご静粛に、当主の海原様がおいでになります」

キース「海原…来たぞ」

海原が入ってくる。皆、あわてて正座して座る。

海原「待たせたな。私に会いたいというのはお前たちか？」

キース「はじめてお目にかかります。私は考古学者のキースと申します。私は世界中をめぐり、考古学の研究と共に人類の遺産といえる財宝や美術品、はたまた太古のマンモスのミイラまでも、後世に残していくために日夜奮闘しております。この度、この島に眠る黄金のマリア像がある不屈きな海賊たちが狙っているという情報を耳にしまして、居ても立ってもいられず、こうして遠路はるばる航海をしてきた次第です」

海原「ふーん、不屈きな海賊とな。そなたは？」

アバズレ「私は海賊亡霊三銃士のアバズレと申します。こっちは妹のシリガル、そして末の弟クスグリです。どうぞお見知りおきを」

潮目「うわさに聞いたことがあります。東と西の水平線に太陽と月を望む今日と明日の真ん中にある幻の城、そこにたいそう美しく武勇に優れた海賊の亡霊が住んでいると」

アバズレ「恐れ入ります」

海原「その海賊亡霊までも、私に何用だ？」

アバズレ「はい。この島のどこかにあるとされる黄金のマリア像について、お教え願えないかと馳せ参じました」

潮目「黄金のマリア像？それを知ってどうする？」

海原「お前たちも黄金に目が眩んだか？」

アバズレ「いいえ、滅相もない。私たちはマリア像を守るために来たのです」

海原「確かにすでに、何者かが島に侵入したようだが心配は無用。我らは

我らでこの島とマリア像を守ってゆく。そなたたちは、事が荒立たぬうちにこの島を去るがいい。よいな？」

キース「いやいや、敵を甘く見てはいけません。あいつは時々、信じられない行動をとります。たいせつな黄金のマリア像に何かあつては」

アバズレ「私たちにお手伝いをさせて頂けませんか？決して後悔はさせません」

キース「私たちは何も望みません。ただ、一目だけ、一目だけ黄金のマリア像のお顔を眺めることが出来ればそれだけで。いかがでしょうか？」

潮目「海原様、どうされますか？（キース達を睥睨する）」

ナワバリ「なんだ？やるか？てめえ…」

海原「わかった。お前たちの気持ち、ありがたく受けるとしよう」

テキーラ「やった」

海原「ただし」

シリガル「ただし？」

海原「マリア像のある場所はわれも知らぬ」

クスグリ「え？そうなの？」

アバズレ「こらっ！」

キース「それは本当ですか？」

海原「月満る時雪は舞い、黄金の笑み命の花咲かさん（つきみつるとききはまい、こがねのえみいのちのはなさかさん）。島に残る言い伝えだ。マリア像が姿を見せる『場所』を現すとされている。考古学者ならこの言葉の意味するところ、見事に解いてみよ」

キース「むむむ…」

海原「ははははは！頼んだぞ！」

潮目「何か分かったら私に知らせろ。よいな？」

出ていく海原。つづく潮目。

ナワバリ「言い伝えねえ…見つかりますかねえ？」

テキーラ「面倒くさいなあ、頭使うの」

ナワバリ「お前のスカスカ頭なんか誰も期待しちや（立ち上がりながら）…あら？」

テキーラ「そりやそうか、どうした？兄貴（立ち上がりながら）…おりよ

りよ」

キース「とにかく、黄金のマリア像を見つけるヒントは手に入れた！あとは、やつより先に（立ち上がりながら）…おっととととと…」

クスグリ「あわわわわ…足が」

シリガル「しびれて…」

アバズレ「歩けな…い！」

次々立ち上がるが、足がしびれてぐにやぐにやなキース達一行。

あめふらしの家。

スカイ「あめふらし、さんごが殺されるってどういうことだよ!？」

あめふらし「…この島には数十年に一度おこる大満月の夜に、島の女を生贄として海に捧げる風習があるの」

スカイ「そんな…何のための生贄だよ？」

あめふらし「魔女狩りって聞いたことない？」

アボカド「知ってる! 魔女を火炙りにして処刑しちゃうんでしょ!?! おい
らも危なくやられるところだったのさ(じろり)」

スカイ「まあまあ」

マリネ「根に持ちますねえ」

あめふらし「…それが形を変えたものが、この島の儀式なの。海に囲まれ
生きる私たちは、海を崇め邪悪なものを封印するために代々、島の女を生
贄として処刑してきたのよ」

マリネ「処刑っていったいどんな方法で？」

あめふらし「…生贄に選ばれた女は、海に沈められる」

アボカド「ひえー!」

ダンス「残酷ね…」

あめふらし「そして今…この儀式を司るのが…あの海原」

スカイ「…なあ、この島の信仰っていったい」

あめふらし「パロネック正教よ」

アボカド「出た!」

マリネ「またもやパロネック…」

ギラギラ「(手帳をめくり) パロネック正教…古くはパロネック教会の前
身だな」

あめふらし「先日、海原は占いによって、次の生贄をさんごにすると告げ
てきたわ。だけど、絶対にそんなことをさせるわけにはいかない! 例え信
仰を捨てたとしても…」

さんご「月満る時雪は舞い、黄金の笑み命の花咲かさん」

マリネ「なんですか? それは」

そら「生贄をささげる『時』を現すとされる、島の古い言い伝えだよ」

さんご「私は…姉さんやそら、それから島の幸せが続くなら…命を捧げて
もかまわないわ」

そら「やだ! いやだよ! さんご、行っちゃダメだぞ! 絶対ダメだぞ!」

スカイ「そら…」

マリネ「そうですね、きつと何かいい方法があるはずですよ。みんなで考え
ましょう!」

ダンス「それで、その生贄の儀式っていうのは、いつなの?」

あめふらし「わからない…それに海原は儀式のためなら、どんな汚い手を
使ってくるか…」

スカイ「バンジー…何してんだよ」

あめふらしの家の庭。

一人無気力に、短剣をもてあそぶスカイ。

そこにあめふらしの妹、さんごがやってくる。

さんご「…あ」

スカイ「どうしたんだ？さんご」

さんご「…姉さんに言われて、水を汲みに」

スカイ「そっか。大変だな、代わろうか？重いだろ」

さんご「大丈夫です、私の仕事だから…それより、あの」

スカイ「スカイだ」

さんご「スカイさんはここで何を？」

スカイ「あ、いや…仲間がさ、無事かなくて」

さんご「さっき言ってたバンジーさんて人？」

スカイ「うん…俺たちの船の船長のバンジーなんだけど、見当たらなくてさ、ちよつと心配なんだけど…でも大丈夫だよ、あいつは異常に頑丈だし泳ぎも得意だから、きつと…大丈夫だ」

さんご「はやく見つかるといいですね」

スカイ「ああ、ありがとな。なんか、さんごことそら見てたら、あいつの事考えちゃまって。あいつは俺にとって兄貴みたいなもんだからな」

さんご「仲がいいんですね」

スカイ「良かねえよ、いつつも喧嘩ばかりしてる。でもあいつは…バンジーは、馬鹿なんだけど、まっすぐなんだよな」

さんご「馬鹿だけど、まっすぐ？」

スカイ「ああ。俺もさ、そんな風に生きてえなって思っつて、あいつの船に乗ってるわけ。腕つぶしも強ええし、とにかく変な奴なんだよ。あれ？俺、なんでこんなことペラペラ話してるんだろ？ははは、不思議だなあ…初めて会った気がしない、君も君の姉ちゃんも」

さんご「姉さんも？」

スカイ「ああ…誰かに似てる気がするんだけど、思い出せない……いったい、誰なんだろうな？俺が思い出そうとしてる人って…」

さんご「あの…スカイさんはどうして海賊なんてやってるんですか？」

スカイ「うーん、話せば長いような短いような…俺はさ、小さい時に海賊にさらわれて、知らない場所で知らない人間の中で育ったんだ。だから元々は海賊が大嫌いだった…だけどどんな仕事をして何をやっても、海が忘れられなくて。だったら俺が嫌いだった海賊じゃなくて、良い海賊になってやろうって決めたんだ」

さんご「いい海賊っているんですか？」

スカイ「さあな。俺たちも財宝求めて旅から旅のはぐれもんだけど、人を殺したり貧乏人から金を巻き上げるなんてことはしない」

さんご「へー、かっこいいですね」

スカイ「かっこよかねえよ、しょせんは海賊だ」

さんご「そういえば、スカイさんとそら、同じ名前ですね」

スカイ「え？…本当だ、そらにスカイか。おもしれえな（笑）」

さんご「ほんとに（笑）」

深夜の海岸。キースがパイプを吸っている。
そこにギラギラが現れる。

キース「遅いじゃないか。私を待たせるんじゃない」

ギラギラ「これは失礼しました、キース博士」

キース「会えたぞ、あの崖の上の当主に」

ギラギラ「そうですか。いかがでしたか？収穫は？」

キース「私を誰だと思っている？いい情報を手に入れた」

ギラギラ「さすがですね。やはり、人間頭脳です。まったく、ホエール号の奴らときたら馬鹿ばかりで：あ、失礼しました。それで、いったいどんな？」

キース「その前に、お前の方はどうなんだ？何かわかったのか？」

ギラギラ「はい、私もすこぶるいい情報を手に入れました」

キース「よしよし、でかしたぞ。お前の推測通り、あの建物は天主堂、つまり教会だ。そこにこの島の信仰を束ねている海原という当主がいた」

ギラギラ「そいつはパロネック正教の宣教師です」

キース「なるほど。この様な辺境の地にまで布教に来るのは、やつらくらいの者だ。言葉が通じなくても、未開のジャングルの奥地でも、人間がいると分かればどんな場所にも行く。我々トレジャーハンターよりも執念深い」

ギラギラ「ごもつともです。それで、黄金のマリア像は？」

キース「あの教会にマリア像は無かった」

ギラギラ「そのようですね。昔、島の人間がどこかに隠したと聞きました」

キース「そうだったのか。だが、マリア像の在り処を示す、古い言い伝えを聞いた」

ギラギラ「それは素晴らしい！どんな言い伝えなのですか？」

キース「いいか、良く聞け。月満る時雪は舞い」

ギラギラ「ちよつと待つてください！それでもしかして(手帳をめくり)、
：月満る時雪は舞い」

キース・ギラギラ「黄金の笑み命の花咲かさん！」

ギラギラ「同じだ！」

キース「なぜこの言葉を知っている！？」

ギラギラ「聞いたんです、島の女に」

キース「なんの言い伝えだと！？」

ギラギラ「海に生贄を捧げる“時”を意味していると」

キース「なに！？こっちはマリア像が姿を見せる“場所”を表していると聞いたが：んー、どういうことだ？ひとつの言葉に二つの意味：」

ギラギラ「どちらかが誤りなのでしょうか？」

キース「分からね：他に何か言っただけか？」

ギラギラ「えーと、あとは：そうだ、島の女を生贄として海に捧げる風習があり、数十年に一度おこる大満月の夜に行われると、たしかそう言っていました」

キース「数十年に一度おこる大満月？：」

うろろ歩いて考えるキース。急に思いついたように、月の位置と懐中時計を見ながら、砂の上で計算を始める。

ギラギラ「どうしたんですか、キース博士？…ちよつと、私にも教えて！…ねえ、キース博士！」

キース「わかった！わかったぞ、ギザギザ君！」

ギラギラ「ギラギラです！ギラギラ！」

キース「名前なんてどっちでもいい！いいか、月満る時というのは、おそらく大満月のことを指している。そして大満月とは数十年に一度訪れるスーパームーンのことなんだよ！」

ギラギラ「スーパームーン？」

キース「月が地球にめっぼう近づく夜があるのだ。計算によると、大満月は明日の夜だ！」

ギラギラ「えー、明日の夜！？では、黄金のマリア像は明日の夜に、大満月の中で姿を現すのですね！？」

キース「そうだよ、ギザギザ君！よし、そうとわかったら次は『場所』の謎を解くまでだ！船の準備もせねばな。お前はどこうする？」

ギラギラ「私は戻って、奴らの動きを見張ります」

キース「わかった（行こうとする）」

ギラギラ「キース博士！」

キース「なんだ？」

ギラギラ「お約束はお忘れなく」

キース「分かっている。こつちも馬鹿ばかりで困っていたんだ。報酬ははずませてもらおう」

ギラギラ「お願いします」

別方向に去るキースとギラギラ。

そこにバンジーが現れる。

バンジー「聞いちゃった、聞いちゃった。むふふふ、面白くなりそう！」

突然、何者かに囲まれるバンジー。

※カクレゴッドダンのモブ

潮目「お戻りください、バンジー様！海原様がお探しです」

バンジー「いいよ、もう。こう毎晩毎晩宴会じゃ、さすがに疲れちゃったぜ。それに魚ばかりだし、そろそろ肉も食いたいなーって思ってた。ごちそうさんて、海原に言っといて」

潮目「そうは参りません。あなたに自由に島をうろつかれては困ります」

バンジー「気にすんなって。あんたらに迷惑はかけないからさ。ちよこちよこつと黄金のマリア像をいただいたら、さっさと島から出て行ってやるからよ」

潮目「なりません！お聞きいただけにやうならば致し方ない」

バンジー「お？やろうつての？そうこなくっちゃ面白くねえ！今日も俺は最高についてるからな！カモーン！」
潮目「やれ！」

M カクレゴッドダンのテーマ

※アンサンブル…カクレゴッドダン

バンジーに襲い掛かるカクレゴッドダン。
激しい戦闘。

バンジーがやや劣勢になった時、スカイが助けに来る。

スカイ「バンジー！」

バンジー「おせえじえねえかよ！」

スカイ「わりいわりい、ちよつとかわいこちゃんに声掛けられてよ」

バンジー「はん！うそつけ！」

戦闘が再開。

あめふらしも応戦に来る。

あめふらし「潮目！いつまであいつの言いなりになってるつもりだ！？」

潮目「うるさい！お前こそ、いい加減抵抗はやめて、海原様に従がえ！大人しく妹のさんごを差し出せ！」

あめふらし「ふざけるな、妹を生贄などに出来るものか！」

潮目「島がどうなってもいいのか！？お前は神を裏切るといふのか！？」

あめふらし「神だと！？お前はあいつに操られているんだ！目を覚ませ！えい！」

潮目「（腕を斬られる）くそつ、あめふらし、貴様…覚えている！」

引き上げていくカクレゴッドダン。

あめふらしの家に戻ってくるバンジーたち。

ダンス「バンジー！無事だったのね！」

バンジー「お前からこそ良く生きてたな！」

マリネ「海に落ちた時はどうなる事かと思いましたが、クラゲにつかまって何とか岸まで泳ぎました。ぷーかぷか、ぷーかぷか」

アボカド「バンジー船長（泣）、さぞや空腹でしょう！どうぞ、干物です！」

バンジー「いらない、お腹パンパン、それに肉が食いてえって言うてんだろう！」

アボカド「え？聞いてない、聞いてない…」

バンジー「あんた、さっきは助かったぜ」

ギラギラ「彼女はあめふらし。島に流れ着いたところを助けてくれたんで

す」
バンジー「そうか。仲間が世話になったみたいだな。礼を言うぜ」
あめふらし「いいえ」
バンジー「さっきのやつらはなにもんなんだ？」
あめふらし「カクレゴッドダン」
バンジー「カクレゴッドダン？なんだそれ？」
あめふらし「もともとはこの島の仲間だったわ。だけど、海原に取り込まれて、私たちとは敵対する関係になってしまった」
さんご「バンジー船長さんですね？」
バンジー「ああ、そうだけ。お前は？」
さんご「さんごです。よかったですね！スカイさん！」
スカイ「シー！」
バンジー「なに？なにがシーなの？」
スカイ「なんでもねえよ、ははは…」
そら「船長さん！」
バンジー「おう、なんだ？」
そら「お願い、さんごを助けて！」
バンジー「生贄になるって話か？」
スカイ「知ってたのか？」
バンジー「俺がただ酒ばかり飲んで、女どもと歌って踊って遊んでただけだと思ってるのか？」
みんな「思う！」
バンジー「(咳)：だが船が壊れたままじゃな」
マリネ「簡単な修理はしておきましたよ」
バンジー「やるなあ、マリネ！」
アボカド「ちよっとだけ右に傾くんだけど」
バンジー「そうなの？ま、いいか。とにかく、これでみんな揃ったわけだ。さんご、任せときな。お前を生贄なんかにはさせないさ。それじゃいっちょ拝みに行きますか！？黄金のマリア像様をよ！」
みんな「OK！バンジー！」

M 我ら罪深き神の僕

帆を上げて船出するホエール号。

バンジー「やっぱり、ちよっと傾いてるなあ」
マリネ「ええ」

みんな傾いている。

■ 四波

天主堂。宴会の真っ最中のナワバリやアバズレたち。相手をするカクレゴッドダンの女たち。

テキーラ「最高！最高だぜ、兄貴！もう俺はどこにも行かないもんねー」
ナワバリ「そうだな、ここで一生終わってもかまはねえよな！わはははは！」
クスグリ「お前らおもしろえな！俺、ずっと女兄弟で暮らしてきたから、男同士って羨ましいよ」

ナワバリ「羨ましい？こんなやつのが？笑わせるぜ、なあ、テキーラ！」
テキーラ「そうだぜ、兄ちゃん！俺なんか海賊としても、人間としてもクズ中のクズ！酒飲むだけしか脳がねえ、頭も悪い、育ちも最悪」

クスグリ「すごい自己評価の低さだね、ギャハハハハハ！」

シリガル「ねえ、男よんでよー、女ばっかでつまんなーい！」

ナワバリ「ここにいるだろう？絶世のイケメンが」

アバズレ「だれがイケメンだって？ツケメンの間違いだろ？」

シリガル「ツケメンというより、油麵じゃね？」

テキーラ「船の油でギットギトってか？」

ナワバリ「馬鹿野郎、これはなフェロモンだよ、フェロモン！」

クスグリ「フェロモンっていうより、ドラえもんだろ！？」

ナワバリ「どこでもドア！（モノマネで）」

みんな、大笑い。

そこに笑いながら入ってくる海原。

海原「ほほほほほ！盛り上がっているようだね。どんどんおやり。そうやって酒におぼれ、欲にまみれ、己を見失った者ほど、我が力に支配されるのだ！」

M カクレゴッドダンのテーマ

※アンサンブル…カクレゴッドダン

海原「エロイムエツサイム、フルガティウイ・エト・アツペラウイ！我に仕え我に従がえ！エロイムエツサイム、フルガティウイ・エト・アツペラウイ！我を称え我にかしずけ！あはははははは！」

海原に支配され、人形のように従い始めるアバズレ達やナワバリ達。

海原「ふふふふふ、これでお前たちもカクレゴッドダンの仲間入りだ。さあ、いいかいお前たち、生贄の女を探しておいで。我らの手で、女を海に捧げよう！その時こそ…私は永遠の命を手に入れる！」

島の洞窟。

マリア像を捜索中のバンジーたち。

ギラギラ「ここも違いますね」

スカイ「そうみたいだな」

ダンス「マリア像を隠せそんな海の洞窟って、あとどのくらいあるの？」
あめふらし「おそらくあと100カ所以上はあるわ」

アボカド「そんなに。どうする？バンジー」

マリネ「大満月までに見つけないといけませんからね」

スカイ「だけど、大満月がいつなのか分からないままじゃな」

バンジー「そうだ！いい事思いついちゃった！」

そら「なに？バンジーさん、いい事って」

バンジー「ふふふ、内緒！にひひひひひ」

マリア像のような布を無理やりかけられるダンス。

ダンス「…うつそー！？やだやだやだ！どうして私が身代わりなんてあぶ
ない事やらなきやいけないのよ！？」

バンジー「心配すんなって！奴らが来たらさっさとやつつけて、すぐに
助け出してやつからよ。マリア像はその後、ゆっくり探せばOKだ、俺っ
て天才！ウシシシシシ」

ダンス「全然、信じられないんですけどー！」

スカイ「だけど本当に来るかな？」

バンジー「来るさ。やつらはどうあつても生贄が欲しいようだからな、必
ず来る！」

さんご「ダンスさん、私のために身代わりなんて…ごめんなさい！」

ダンス「…もう、いいわよ、こうなったら任せときなさい」

そら「がんばってね、ダンスさん！」

ダンス「はいはい！はあ」

バンジー「ダンス、心配するな。ほら、もっと生贄っぽい顔しろ！」

ダンス「そんなの出来るわけないでしょ！？まったく…」

スカイ「し！誰か来たぞ！」

バンジー「よし、ダンス、しっかりやれよ！頼んだぞ、あめふらし！」

あめふらし「わかった」

ギラギラ「さんご、こっちに隠れていよう」

さんご「はい」

ダンス「やだなあ、もう…本当にすぐに助けてよね」

顔を隠すダンス。隠れるバンジーたち。

キースを先頭に入ってくるカクレゴッドダン。

にらみ合う海原とあめふらし。

海原「やっとなつて気になったか。生贄はどこだ？」

ダンスを指し示すあめふらし。

海原「別れの前に教えてやろう。大満月は今日の夜だ。お前の妹は今夜、
海と神に捧げられる。これでまた島の平安は守られるだろう（潮目に目配
せる）」

潮目「(ダンスの布をはぎ)こいつ…海原様！生贄の娘ではありません！」
海原「フツ、そんなことだろうと思ったわ。バンジー！いるのだろう？そこそ隠れていないで出てきたらどうだ？そなたらしくもない」

ゆっくり出て来るバンジー。

バンジー「よう、海原。この間はずいぶんごちそうになっちゃって悪かったな。だけど、今度邪魔するときは、魚ばっかじゃなくて、肉も出してほしいな」

海原「ふふふ、わかった。だけどそなたが、生きて天主堂の門をくぐることは二度とないであろう。やれ！」

戦闘が始まる。

人が変わったように戦うナワバリたち。

スカイ「おっとシリガル！なんだがやけに真面目に戦うな、キャラ変かよ！？」

バンジー「アバズレ、どうしたんだ？可愛い顔が台無しだぜ？」

激しさを増す戦闘。

その時、銃声が轟き、ギラギラがさんごに銃を突きつけて出て来る。

ギラギラ「バンジー！」

バンジー「あん！？」

スカイ「さんご！ギラギラ、てめえ、いつもいつも…」

ギラギラ「黄金のマリア像はあきらめていただく」

バンジー「ギラギラ、ほんと、お前いい死に方しねえぞ」

ギラギラ「それについては同感です」

キース「ギザギザ、良くやった。娘をこっちへ連れてこい」

ギラギラ「あの、ギラギラです」

海原「バンジー、悪く思わんでね。マリア像はうちにくれるって約束してくれたやろ？ほーほほほほ」

あめふらし「海原！きたない真似を」

そら「このやろう！さんごを返せ！」

海原「あめふらし、お前は島の掟と神との約束を妨げた！もはや信徒ではない！今すぐこの島から出ていけ！そうすれば命だけは助けてやろう。わかったな！」

さんご「…スカイさん！」

スカイ「さんご！」

海原「ゆくぞ！」

さんごをさらって立ち去る海原一行。

スカイ「待て！」
バンジー「やめとけ、スカイ」
スカイ「なぜだ！？なぜ行かせちゃうんだ！見損なつたぞ、バンジー！」
バンジー「そう騒ぐなつて、作戦通りなんだから。ギラギラが裏切つてることは分かつてたからな。ま、見てろつて」

■五波

海原の船の上。
黒い布を羽織つたマリネとアボカドが現れる。

アボカド「夜になったね、もう大丈夫かな」

マリネ「よし、もう取つても大丈夫でしょう」

アボカド「ああ、怖かった：ばれなくてよかつたねえ」

マリネ「本当に：あの人といたら、命がいくつあつても足りやしない。戦いの途中で、どさくさに紛れてカクレゴッドダンになりすませなんて」

アボカド「でも上手いこと船に潜りこめて良かったね：だけど、ここはいつたいどこなんだろ？」

マリネ「さあ：島からはそんなに離れていないけれど、こんな大海原に船を止めてどうするんだ？」

アボカド「それより、早いとこバンジー船長に知らせないと」

マリネ「そうだった、そうだった」

アボカド「でもどうやって知らせるの？」

マリネ「心配無用、任せといて（カモメの泣き声のモノマネ…エコー）」

アボカド「なにそれ！？」

マリネ「カモメ信号」

アボカド「カモメ信号？そんなんで大丈夫なの？」

マリネ「心配ない心配ない、必ず届くから。今度教えてあげよう」

アボカド「いい、いい…」

マリネ「そう？（カモメの泣き声のモノマネ…エコー）」

人の気配がする。

マリネ「おっと、誰か来た！隠れて隠れて！」

ギラギラ「今夜はカモメがやけに騒ぎますね」

キース「鳥目じゃないのか？カモメは」

ギラギラ「そんなことより、ここなのですね？間違いなく黄金のマリア像はこの辺りにあると？」

キース「ああ、間違いない。言い伝えを解読した結果、ここしかありえない！」

ギラギラ「だが夜の海じゃ何も見えませんね。この海の下に何があると言うのですか？」

キース「珊瑚だ。この下には、珊瑚の群生が広がっているのだ」
ギラギラ「珊瑚！？」

大満月が明るい光を放ち輝き出し、さんごを引っ立てて海原が出てくる。

海原「おー！見てみる、大満月だ！大満月が現れたぞ！」

キース「いったい何が起きるといふのだ！？」

潮目「海原様！海が！」

その時、珊瑚が一斉に産卵を始める。

海原「月満る時雪は舞いとは、珊瑚の産卵のことだったのか！？素晴らしい、素晴らしいぞ！」

キース「珊瑚は命の始まりの象徴。太古より珊瑚が生み出す酸素によって、地上の生き物は生きてこられたのだ！まさに命の花咲かさん」

海原「今だ、生贄を海に沈める！若き娘の命を珊瑚の海に捧げるのだ！」

海に沈められていく、さんご。

※波のモブ

スカイが現れる。

スカイ「やめろ！さんごを離せ！さんご、今行くぞ！」

バンジーが飛び出してきて、海に飛び込む。

スカイ「バンジー！」

スカイも海に飛び込む。

波に漂い気が遠くなつていくさんご。

さんごの心臓の音が海の中に響く。

波に揉まれ、もがくバンジーとスカイ。

スカイがさんごにたどり着き、さんごの手をつなぐが溺れていくスカイ。その二人にバンジーが近づいていく。

海原「さあ、出でよ！黄金のマリア像よ！そしてわれに永遠の命を与えたまえ！月満る時雪は舞い、黄金の笑み命の花咲かさん！エロイムエッサイム、エロイムエッサイム！我が願い叶えたまえ！」

バンジーが二人をつかまえるが、三人とも波間に消えていく。

さんごの心臓の音が止まる。

海が割れ、黄金のマリア像が出現する。

海原「なんとという美しさ…やつとこの目で見る事ができた…これで積年の悲願が成就する…われは永遠の命を手に入れるのだ…」

マリア像に近づき、ひざまずく海原を優しく引き寄せるマリア像。自らもひざまずき抱きしめ、己のベールで海原を包み込む。

海原が小さな珊瑚の玉になっている。

M 命の花

※波のモブ

それを持ったまま消えていくマリア像。

静まり返った海。船の甲板の上で、呆然とするキースたち。我に帰ったアバズレ達、そして潮目とカクレゴッドダン。

あめふらしの家。心配げなあめふらし。
さんが目覚める。

そら「さんご！」

さんご「…私、いったい…スカイさん？スカイさんは？海に沈んでいく時、私の名を呼ぶスカイさんの声が聞こえたの！スカイさん！」
あめふらし「まだ寝ていなさい」

スカイも目覚める。

スカイ「うー…頭いてえ」

マリネ「酸欠からくる頭痛ですね」

アボカド「ほら、深呼吸して、一杯空気を吸って」

スカイ「なるほど、スーハースーハー！こうか？」

マリネ「そうそう、吸ってー吐いてー、吸ってー吐いてー」

さんご「スカイさん！（抱きつく）無事で良かった！」

スカイ「さんご…すまなかつた…俺…」

さんご「ううん、助けてくれて…ありがとう」

スカイ「さんご…」

バンジーとダンスが汚れたマリア像を持って帰ってくる。

アボカド「わ！どうしたの、それ？」

バンジー「ダンスのやつがどうしてももう一度潜って見てこいってうるせえからよ、行ってきたんだよ。海の底まで」

マリネ「よく見つけましたね、だけどこれ、黄金じゃありませんね。間違いないんじゃないませんか？」

バンジー「間違い！？俺はちゃんと同じ場所に潜ってわざわざひっぱりあげてきたんだぞ」

アボカド「なんだか汚いね」

マリネ「捨てましょ、捨てましょ、船の荷が重くなりますからね」

ダンス「いやよ！これは私のよ！ぜったい持っていくんだから！」

海賊亡霊三銃士が入ってくる。

アバズレ「その像は本物よ」

スカイ「アバズレ！」

アバズレ「その像はね、大満月の夜、生贄の命に触れた時だけ黄金に輝くの。生贄は信仰の深さの証だったのよ。信仰が証明されれば生贄の命は助かる。黄金の笑み輝き、命の花咲さんってね」

スカイ「知っててさんごの命を試したのか！？」

アバズレ「怒らないでよ、あの時は知らなかったし普通じやなかったんだから、それに私はただ…好きな男のために…うわあー！（泣き出す）」

アボカド「なんだなんだ？」

ダンス「どうしたのよ、急に」

シリガル「別れたのよ、キース博士と」

マリネ「なぜです？」

アバズレ「あの男…宝探しに私を利用しただけなのよー！（大泣）だから私、やってやったわ」

バンジー「何を？」

アバズレ「ボッコボコにぶつとばして、ギッタンギッタンに引っ掻いて、ボロボロになるまで引きづり回して、ふーふー、あーはははは、ザマーミロー！（大笑）大泣）」

クスグリ「ということで俺たちは自分たちの城へ帰ることにしたよ。それから、これ（古い巻物をバンジーに渡す）」

バンジー「なんだ、これは？」

クスグリ「やるよ。天主堂の祭壇の奥に隠されていたのを見つけたんだ。人々を操る催眠術の方法とか、例の言い伝えなんかも書いてあったぜ」

シリガル「きつと島の信仰の行く末を心配した先祖たちが書いたんじゃない？」

ダンス「海原はそれを読んで、マリア像が生贄と引き換えに永遠の命を授けてくれるなんて、間違った解釈をした結果」

バンジー「珊瑚にされて海の底か」

マリネ「簡単には死ねませんからねえ、珊瑚になったんじゃない」

アボカド「なら願いは叶ったんじゃない？永遠の命を手に入れたんだからさ」

ダンス「海原は化け物でも、ましてや天草四朗の生れ変わりでも何でもなくて、大ボラ吹きのパテン師宣教師だったってわけね」

そこに潮目が来て、あめふらしの前にひざまずく。

あめふらし「潮目」

潮目「あめふらし：今まですまなかった、どうか許して欲しい。そして、この島の信仰を守るために、当主sとして天主堂へ上がってくれないか？
どうか：頼む！あめふらし」

あめふらし「：潮目、顔を上げて：条件があるわ。生贄の風習は廃止する」
潮目「それじゃあ」

あめふらし「やり直しましょう。もう一度みんなで」

バンジー「仕方がねえな、ダンス。マリア様はあきらめろ」

ダンス「そのようね。仕方ない、大切にしなさいよ」

潮目「はい！」

あめふらし「ありがとう：みんな」

バンジー「よし、そうと決まったら次のお宝目指して、出航の準備だ！」
みんな「OK！バンジー」

出航したホエール号。縛り上げられたギラギラ。

バンジー「どうだ？ギラギラ、餌になった気分は。そろそろサメがガブリと！」

ギラギラ「ギャー！もうやめてください！いつそ殺してくれー！」

バンジー「やだね。そうだ、何かとっておきの宝の情報よこせ。そうしたら、餌にするのはやめてやる」

ダンス「バンジー、ほら、これ。ギラギラの手帳」

ギラギラ「あ、それはダメ！それには大事な氷河の王冠の情報！」

バンジー「氷河の王冠！」

スカイ「なんだそりよ？」

マリネ「王冠とは気になりますねえ」

ギラギラ「しまったあ：」

アボカド「氷河って寒いんじゃないの？」

バンジー「でもおもしろそうだな、きちんと教えてもらおうか？」

ダンス「ふんふん（手帳を見ながら）：ね、ちよつと聞いて！：：“氷河の王冠”、かつて南極大陸に君臨した王家の王女が殺され、悲しんだ王はいつの日か王女が蘇ることを祈りつつ、南極の氷河の壁に王女を埋葬した。王女と共に氷壁に閉じ込められた膨大な宝物と王家の証である王冠は今もそこに眠っている！すごいじゃない！ねえ、バンジー！」

バンジー「氷河の王女の王冠か：こりやものすげえワクワクするな」

マリネ「持病が出ましたね、ワクワク病！」

アボカド「それじゃ」

スカイ「お次は！？」

バンジー「行くぜ！赤道超えて、南極大陸！」

みんな「OK！バン」

銃声が響く！

シャーク号が近づいてきて、包帯だらけで杖を突いたキースが現れる。

スカイ「キース！生きてたのか？」
マリネ「アバズレさんに殺されたと聞きましたが？」
キース「うるさい！…バンジー！マリア像をこつちに渡せ！」
バンジー「マリア像？だめだめ、女を泣かせるような奴にマリア像は渡せねえよ。それにあれは島に置いてきた、今ごろ天主堂で微笑んでるはずだ。代わりと言っちゃなんだが、これならどうだ！？」

爆弾をシャーク号に投げ込むバンジー。

キース「貴様、何を！？」

バンジー「わははははは！船をぶつ壊してくれたお返しだ！」

キース「馬鹿馬鹿！怪我をしてるのに！くそ！（ナワバリに）」

ナワバリ「わー、博士ひどい！やばい！ほれ！（テキキラに）」

テキキラ「ちよつと兄貴！なんでこつちに！お返しします！（ホエール号に投げ返す）」

スカイ「つとつとつと（マリネに）」

マリネ「ひー、ご勘弁！（アボカドに）」

アボカド「やめてやめて（ダンスに）」

ダンス「…（しばしフリーズ）イヤー！」

みんな「ダンス！！」

爆弾を海に投げ捨てるダンス。

爆弾が爆発し、大爆音と閃光の中、凄まじい水しぶきが舞う。

M テーマソング

※総踊り

おしまい